

# 小学校通常学級の授業内における合理的配慮の実践と課題

○腰川一恵<sup>1</sup> 芳賀明子<sup>2</sup> 河村 久<sup>1</sup>  
 (聖徳大学児童学部<sup>1</sup>) (帝京短期大学<sup>2</sup>)

KEY WORDS: 小学校通常学級 合理的配慮 活用と課題

## I. 目的

障害のある子どもに対する小学校通常学級の授業内における合理的配慮が実践されている。しかし、合理的配慮が授業中に児童の課題に対してどのように活用された結果、有効であったところとその課題は何かという検討は十分ではない。そこで、本研究では、個別指導計画が作成されている児童に対して、小学校通常学級の授業において実践した合理的配慮を整理し、授業の実践における課題について検討する。

## II. 方法

1. 対象となる授業と実施時期: 対象者; 首都圏のA地域内の公立小学校の教師 6名の算数科の授業。実施時期は、2016年6月より12月までの6回。

2. 手続き: 各授業前に①授業者が児童の授業におけるつまずきを想定し、学習指導案を作成②授業者および専門家が授業における合理的配慮を検討③合理的配慮を加えた学習指導案に修正④授業を実施⑤専門家とともに授業後に合理的配慮等について課題を話し合うという手順であった。

3. 分析方法: 予測されるつまずき、授業における合理的配慮について類似した内容を整理し、課題については、各学年の内容を記述した。

## III. 結果

1. 予測されるつまずき: 1~3年では、授業の参加自体の困難さや学習内容の理解の難しさ、授業への集中、友達の発表を聞くことの難しさがあった。4~6年生では、学習への意欲の低さや自身のなさ、学習内容が理解できない、進んで発言ができない、課題を行うこと自体の難しさが挙げられた。

2. 合理的配慮の内容: 1年生は、具体物の活用やグループ活動による他者への注目が行われ、2、3年生では学習内

容をイメージできるような具体物の活用や学習内容を絞ることが行われた。4、5年生では、学習の自信のなさに対するグループ学習や発表の方法提示等が設定され、学習のどこに着目するかという提示や学習を理解するための補助発問やカード、数直線が活用された。6年生では、学習の意欲の理解を進める具体例や模型、公式の確認が行われた。

3. 課題の検討: 以下の内容が担任と専門家の中で話し合われた。1年生: 対象児童の発達や経験のギャップや学習経験のステップの検討および集団で学ぶ活動と個で学ぶ活動をどのような割合で設定するかという検討。2年生: 言葉と数のイメージを補う具体物の工夫、具体物を記号へつなげていく次の段階への橋渡しの必要性。3年生: 言葉と数のイメージ、文章題のイメージを補う具体物の工夫や伝え方の工夫が必要。4年生: 2変量に対する児童の思考の流れを予測する、記号をつなぐ言葉を検討する。5年生: 既習内容の想起と児童がどこに着目するかを予測した発問、板書の整理や数直線の活用による可視化。6年生: 理解を促す部分を決めた支援、抽象的な内容をイメージできる具体例や模型の活用をして、段階を追って理解を進める。

## III. 考察

小学校通常学級の授業では、教師が児童のつまずきを想定した合理的配慮が実践され、全学年で共通して学習内容の理解を促す工夫が行われていた。課題としては、低学年であれば、具体物を数字という抽象的な学習に進めるための支援のステップが必要であること、中、高学年になると児童の理解の段階を考慮した支援を考慮しておくことや学習内容の何を理解として進めていくかという検討が必要であることが示された。

(KOSHIKAWA Kazue, HAGA Akiko, KAWAMURA Hisashi)

表1 対象児童の予測されるつまずきと授業の手立て

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
単元名	かたちあそび	どんな計算になるのかな(加減法の演算)	どんな計算になるのかな(加減乗除法の演算)	変り方調べ	偶数と奇数、倍数と約数	角柱と円柱の体積
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの物の形の活動を通して図形の基礎となる経験を豊かにする</li> <li>ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法及び現法について理解を深め、それらを用いる能力を伸ばす</li> <li>加法と減法について式を用いて説明できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加減法の計算ができ、適切に用いる能力をのばす</li> <li>乗除法の理解を深め、計算ができ、適切に用いる能力を伸ばす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの数量関係を表したり調べることができる</li> <li>数量を□や○などを使った式で表すことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整数の性質について理解を深める</li> <li>倍数、約数の意味とその求め方を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>角柱や円柱について理解を深める</li> <li>角柱や円柱の体積の求め方を理解する</li> </ul>
想定されるつまずき	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動場所を離れたり眠ったりする</li> <li>課題が理解できず、持ってきた具体物を触るだけの活動になる</li> <li>発表の時間に進んでしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に集中して取り組むことができない</li> <li>友達の発表を聞くことができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始時に気持ちを切り替えられない</li> <li>授業に集中して取り組むことが難しい</li> <li>問題を読み取り、演算決定することが難しい</li> <li>友達の発表を聞くことができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に意欲がわかない</li> <li>自分の考えに自信が持てない</li> <li>進んで発言できない</li> <li>自力解決時に何をしていたかわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に意欲がわかない</li> <li>めあてやまとめを書くことができない</li> <li>進んで発言することができない</li> <li>話し合いに参加しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体積の意味を理解できない</li> <li>四角柱の体積を求める公式を忘れていている</li> <li>三角柱のどこを見て立体を決定するか理解できていない</li> <li>計算を正確に行うことができない</li> </ul>
授業における合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>3人組にして、友だちの様子をみる、声をかけて参加を促す</li> <li>グループで作っているものを知らせ、どれを使うか声をかけて関心をを持たせる</li> <li>他のグループの発表時にはあれは何を聞いて関心を持たせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロックを活用して内容を具体化する</li> <li>ブロックの操作を確認する</li> <li>立式する際にブロックを操作して考えることを促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の加法の復習を行う</li> <li>問題場面を1つに絞り、内容の把握を促す</li> <li>テープの長さを比べて比較することを促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3人組にして、決まりを考える</li> <li>個別に補助発問を行う</li> <li>グループの友達からヒントをもらうように指示する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数直線やカードを使って見せることで学習への意欲を高める</li> <li>めあてやまとめをノートに貼る</li> <li>カードを分ける作業を取り入れる</li> <li>ペアで分け方を説明しあう</li> <li>発表の仕方を提示する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体積を具体例を挙げて理解を促す</li> <li>既習の四角柱の公式を提示する</li> <li>三角柱の模型を配布して底面を確認する</li> <li>三角形の公式を確認する</li> </ul>